

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 医学部・医学系研究科

研究 1-1

医学部・医学系研究科

I	研究水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、医学研究科で、いくつかの独自の研究組織と研究グループを定め、その研究活動の現況は、国際的にも評価できる高い水準を維持している。また、産学協同、産官学共同事業においても独自の活動をしているとともに、種々の地域連携、大学間協定や国際協力等も積極的に実施している。研究資金の獲得状況については、これらの研究成果の結果、外部資金の獲得額においても高い状態であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「研究組織の新設と改廃の状況」のうち、新たな組織として「子どものこころの発達研究センター」、「分子イメージング先端研究センター」を新設した。また、一部基礎医学講座の改廃を実施したなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究成果としては、例えば、先天

性リンパ水腫の発症に関与する遺伝子の異常を明らかにしたものや急性骨髄性白血病の臨床的特徴や治療に関する研究等を挙げることができる。社会、経済、文化面では、糞便中から RNA を効率よく抽出する方法を確立することなどは、優れた成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 1 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 5 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。